

船舶事故等調査報告書

平成21年6月25日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

事故等番号	2008門第98号	
事故等名	旅客船ヴィーナス2油送船第十八漁連丸衝突	
発生年月日時刻	平成20年10月27日10時14分ごろ	
発生場所	福岡県博多港博多ふ頭、博多港東防波堤灯台から真方位144° 1.15海里付近 (概位 北緯33° 36.3′ 東経130° 24.0′)	
事故等調査の経過	調査の概要:平成20年12月4日及び22日門司・地方事故調査官が海難報告書を入 手、平成21年2月24日両船所有者から口述聴取、4月14日B船長から 口述聴取 原因関係者からの意見聴取:意見なし	
事実情報		
船種・船名・総トン数	A 旅客船 ヴィーナス2 163トン	
船舶番号	129169	
船舶所有者等	九州郵船株式会社	
船種・船名・総トン数	B 油送船 第十八漁連丸 69トン	
船舶番号(IMO 番号)	132586	
船舶所有者等	株式会社漁連石油	
乗組員等に関する情報	A 船長 三級海技士(航海)	
	B 船長 四級海技士(航海)	
負傷者	A なし	
	B なし	
損傷	A 左舷側前部窓破損2枚	
	B なし	
事故等の経過	A船は、博多港博多ふ頭のポンツーンに右舷着けし、補油のために左舷側へ着舷す るB船を待機中、B船は、船長ほか2人が乗り組み、船首に機関長を、船尾に1人を配 置してA船に接近したが、船長Bは、船首係船素をとったところ、突然意識がなくなり、舵 輪にもたれる状態となり、B船は、停止することなく航行し、平成20年10月27日10 時14分ごろ、A船の左舷前部とB船の船首が衝突した。 機関長Bは、異常事態に気づき、船橋に赴くと、船長Bが意識を失っている状態を知 り、直ちに停船させた。 事故後、意識を取り戻した船長Bは、2人の助力を得て、予定通りの補油をすませ、係 留場所に戻った。 当時、天気は曇り、西の風風力2で、潮候下げ潮の初期であった。	
分析	気象・海象の関与 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 判明した事項の解析	なし あり なし B船がポンツーンに係留中のA船への補油のため接近中、 操船していた船長Bは、係船素をとったところ、突然意識を失っ たものと考えられる。 船長Bは、前日に肩が異常に張るなど体調不良を自覚してい たので、当日は半日で下船することとし、会社も了解してい た。 事故後の精密検査で、髄膜炎と診断されて入院した。

原因	本事故は、B船が係留中のA船へ補油のため接近中、船長Bが意識を失ったため、B船が操船されないまま航行し、A船に衝突したことにより発生したものと考えられる。
その他の事項	船長Bは、平成20年11月7日退院後、船長職に復帰した。